

交通バリアフリー教室の開催状況（平成26年度）

（１）趣旨・目的

高齢者や障がい者などの自立と社会参加の要請へ適切に対応し、高齢者や障がい者などが公共交通機関を円滑に利用できるようにするため、国をはじめとして社会全体で施設整備（ハード施策）のみならず手助けをしやすい環境づくり（ソフト施策）を進めることも必要です。

このソフト施策のひとつとして「交通バリアフリー教室」を開催し、国民一人ひとりが高齢者や障がい者などに対する介助や講話等の体験をし、交通バリアフリーについて理解を深めるとともに、福祉ボランティアに関する意識を醸成して、誰もが高齢者や障がい者などに自然に快く手助けできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指します。

（２）交通バリアフリー教室の実施状況

中部運輸局管内における交通バリアフリー教室の開催実績は、平成14年度から平成26年度までの合計で209回、約16007人の方にご参加頂き、心のバリアフリーの普及促進に向けた啓発活動を行いました。

年 度	開催回数	参 加 人 数	年 度	開催回数	参 加 人 数
平成14年度	2回	62人	平成21年度	18回	1,252人
平成15年度	3回	101人	平成22年度	29回	1,976人
平成16年度	4回	226人	平成23年度	29回	3,272人
平成17年度	8回	291人	平成24年度	21回	1,474人
平成18年度	19回	1,139人	平成25年度	19回	1,414人
平成19年度	20回	1,201人	平成26年度	14回	1,707人
平成20年度	23回	1,892人			

（３）実施概要

中部運輸局管内にいて平成２６年度に実施したバリアフリー教室は、管内で合計１４回開催し、延べ１７００名超の方々に参加いただきました。

開催したバリアフリー教室の一部をご紹介します。

開催日程：平成２７年１月１４日（水）

開催場所：名古屋市立守山東中学校

主 催：中部運輸局愛知運輸支局

協 力：社会福祉法人名古屋市守山区社会福祉協議会
名古屋市交通局

参 加 者：名古屋市立守山東中学校生徒 ２３１名

中学校において、名古屋市交通局による交通バリアフリーに関する講話、視覚障害及び車いす疑似・介助体験、福祉車両・ノンステップバスの乗降体験を通してバリアフリーの理解を深めました。



名古屋市職員による講義



車いすの設置方法について説明



視覚障害疑似体験と介助体験



福祉車両乗降体験

静岡運輸支局 交通バリアフリー教室

開催日程 : 平成26年11月6日(木)
開催場所 : 静岡市立西豊田小学校
主 催 : 静岡運輸支局
静岡市
協 力 : 社会福祉法人静岡市社会福祉協議会
しずてつジャストライン株式会社
参 加 者 : 静岡市立西豊田小学校4年生 155名

小学校において車いす・視覚障害介助疑似体験や福祉車両の乗降体験を実施しました。



車いすに乗ったままバスへ乗車



悪路等を走行

参加者の意見・感想の一部

- ・アイマスク体験ではアイマスクをしたら、目の前が真っ暗でとても不安でこわかったです。目の不自由な人の変な感じがよく分かりました。
- ・車いす体験では、段差があると乗っている人が怖い思いをすることがよく分かりました。乗っている人も介護をする人も大変なのがわかったので、車いすの人が困っていたら声をかけてあげたいです。
- ・バスの乗車体験では、車いすの人が乗れるように折りたたみ式のいすがありました。このバスは車いすの人が乗りやすいように、高さを調整出来ることが分かりました。

福井運輸支局 バリアフリー教室

開催日程 : 平成26年11月20日(木)
開催場所 : 福井市森田小学校
主 催 : 福井運輸支局
協 力 : 社会福祉法人福井市社会福祉協議会
京福バス株式会社
公益社団法人福井県バス協会
参 加 者 : 福井市森田小学校4年生 115名

小学校において車いす疑似・介助体験やノンステップバスの乗降体験を行いました。



スロープにて乗車



段差等を走行

参加者の意見・感想の一部

- ・家にいる祖父も車いすを使う時があるので、今回の教室を生かして手伝いをしたいと思った。
- ・バスに車いすで乗るとき、車いすを押す人はとても力がいることがわかった。
- ・バスから車いすで出入りするのが難しかったので、困っている人を見かけたら助けてあげたいと思った。
- ・車いすでは、曲がったり物を拾ったりするようなことも大変なのがあった。
- ・お年寄りや障害者が生活しやすいようにいろいろな工夫があることが知れてよかった。